

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学病院卒後臨床研修センター歯科部門
教育プログラム・コース名	岡山大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「口腔・全身健康実践」コース —周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—
対象者	研修歯科医
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復、在宅歯科医療を担うことのできる健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応した歯科医療人。</li> <li>・広い一般医学知識を持ち、かつチーム医療および在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、それらを実践できる研修歯科医。</li> </ul>
修了要件・履修方法	<p>修了要件： 本プログラムの全セミナーを受講した後、周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療の各項目について実地研修を受け、内容に即した課題試験に合格すること【H28年度まではセミナーは自由選択、実地研修は現プログラムを厚生労働省の認可範囲内で高度化して必須とする。厚生労働省から研修プログラム変更が認められた後、H29年度より必須】。</p> <p>履修方法： <u>次項の履修科目内容からなるコースを新設し履修させる（学部教育で1単位分）</u>。課題試験不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題でのレポート形式での回答を求める。課題レポート提出を反復させる。</p>
履修科目等	<p>&lt;岡山大学卒後臨床研修自由選択（～H28）、必修（H29～）科目&gt; 「口腔・全身健康実践」コース —周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—</p> <p>各校で各回の担当者が講義・実地研修を行う。講義担当者の派遣が困難である場合はe-learningあるいはDVD視聴で講義と同等の内容を教授する。 各回のセミナー内容は以下の通り。（90分×15回）</p> <p>第1回：「口腔・全身健康」プログラムの概要 第2回：研修歯科医が知っておくべき周術期管理学の歴史と潮流 第3回：周術期歯科管理学各論講義1： 肺がん手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第4回：周術期歯科管理学各論講義2： 食道がん手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第5回：周術期歯科管理学各論講義3： 心臓血管外科手術の実際—研修歯科医が知っておくべき知識 第6回：周術期口腔機能管理の実際 第7回：臨床死生学、臨床倫理学1．高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として 第8回：臨床死生学、臨床倫理学2．延命医療と臨床現場：人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学 第9回：超高齢社会における歯科医療と多職種連携 第10回：在宅医療推進のための多職種連携—柏プロジェクト 第11回：老年学における歯科の位置付け 第12回：在宅医療における歯科の重要性 第13回：在宅歯科医療の実際 第14回：回復期、慢性期医療および在宅医療における摂食嚥下機能訓練の実際 第15回：総合討論</p> <p>各セミナーが終了以降に、それぞれ研修歯科医ごとに1週間程度の実地研究を行う。なお、周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復については現研修を高度化し大学病院内で、在宅歯科医療については外部協力施設において実施する。</p>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p><b>急性期医療から終末期医療までをテーマに据えることが新規性かつ独創性</b>を有する。歯科医師の多くは開業医の医療提供体制で地域医療を担っているが、生活の自立度が比較的保たれた患者を診ることが多く、患者の終末期・死も含め、人の一生を見据える歯科医療の在り方を考える経験が少ない。本教育プログラムでは、<b>岡山大学病院で展開される臓器移植医療をはじめとした高度な医療現場を卒後臨床教育の場として利用するとともに、東京大学死生学・応用倫理センターの協力を得て、卒後臨床研修(歯科)に初めて死生学を導入</b>する。このことが患者の終末期・死も含め、人の一生を見据えた健康長寿社会の実現のために歯科医療がどうあるべきかを考え、貢献する歯科医師のマインドの醸成に繋がる。</p> <p>医療人として必要な哲学観、倫理観とともに、現社会が回復期、慢性期医療および在宅医療で歯科医療に求めているもの、実践につながる知識を、医学の専門家を交えて教授することも新規性かつ独創性である。<b>東京大学高齢社会総合研究機構の協力を得て、最先端の地域包括ケアである柏プロジェクトも題材とすることも独創性</b>である。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>教育プログラム統括：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長） 各回のセミナー担当者は以下の通り。</p> <p>第1回：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長） 第2回：岡山大学・森田潔学長（麻酔・蘇生学） 第3回：岡山大学・宗淳一講師（呼吸器外科学） 第4回：岡山大学・白川靖博講師（消化管外科学） 第5回：岡山大学・佐野俊二教授（心臓血管外科学） 第6回：岡山大学・曾我賢彦准教授（がん口腔支持療法学） 第7、8回：東京大学・清水哲郎特任教授、会田薫子特任准教授（死生学・応用倫理学） 第9、10回：東京大学・飯島勝矢准教授（老年医学、老年学） 第11回：東京都健康長寿医療センター・平野浩彦副部長（老年歯科学） 第12回：国立長寿医療研究センター・角保徳部長（老年歯科学） 第13回：岡山大学・吉富達志臨床講師（地域医療学） 第14回：岡山大学・村田尚道助教（摂食嚥下リハビリテーション学） 第15回：岡山大学・鳥井康弘教授（卒後臨床研修センター歯科研修部門長）</p> <p>セミナーの一部は講師招聘の現実問題から学部学生対象のものと同様開催とする。その他については病院での診療研修（業務）時間外において開催する。</p> <p>また、実地研修は、周術期歯科管理、摂食嚥下機能回復については大学病院の各専門領域（岡山大学病院医療支援歯科治療部およびスペシャルニーズ歯科センター）の指導歯科医が各診療室および院内病棟ラウンドにおいてマンツーマン体制で指導する。</p> <p>在宅医療の実地研修については、厚生労働省に協力研修施設として申請し許可を得た施設で行う。</p>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>研修歯科医教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成27年4月： 在宅医療実地研修以外の受入開始。 平成29年4月： 在宅医療実地研修施設が厚生労働省の協力研修施設として認められ次第、すべての研修の受入開始。</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
<td data-bbox="416 1753 614 1816"> <p>岡山大学病院 研修歯科医</p> </td> <td data-bbox="614 1753 751 1816"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="751 1753 888 1816"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="888 1753 1026 1816"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="1026 1753 1163 1816"> <p>65</p> </td> <td data-bbox="1163 1753 1300 1816"> <p>65</p> </td> <td data-bbox="1300 1753 1436 1816"> <p>175-199</p> </td>	<p>岡山大学病院 研修歯科医</p>	<p>15-23</p>	<p>15-23</p>	<p>15-23</p>	<p>65</p>	<p>65</p>	<p>175-199</p>
<td data-bbox="416 1816 614 1879"></td> <td data-bbox="614 1816 751 1879"></td> <td data-bbox="751 1816 888 1879"></td> <td data-bbox="888 1816 1026 1879"></td> <td data-bbox="1026 1816 1163 1879"></td> <td data-bbox="1163 1816 1300 1879"></td> <td data-bbox="1300 1816 1436 1879"> <p>0</p> </td>							<p>0</p>
<td data-bbox="416 1879 614 1942"></td> <td data-bbox="614 1879 751 1942"></td> <td data-bbox="751 1879 888 1942"></td> <td data-bbox="888 1879 1026 1942"></td> <td data-bbox="1026 1879 1163 1942"></td> <td data-bbox="1163 1879 1300 1942"></td> <td data-bbox="1300 1879 1436 1942"> <p>0</p> </td>							<p>0</p>
<td data-bbox="416 1942 614 2004"></td> <td data-bbox="614 1942 751 2004"></td> <td data-bbox="751 1942 888 2004"></td> <td data-bbox="888 1942 1026 2004"></td> <td data-bbox="1026 1942 1163 2004"></td> <td data-bbox="1163 1942 1300 2004"></td> <td data-bbox="1300 1942 1436 2004"> <p>0</p> </td>							<p>0</p>
<td data-bbox="416 2004 614 2067"> <p>計</p> </td> <td data-bbox="614 2004 751 2067"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="751 2004 888 2067"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="888 2004 1026 2067"> <p>15-23</p> </td> <td data-bbox="1026 2004 1163 2067"> <p>65</p> </td> <td data-bbox="1163 2004 1300 2067"> <p>65</p> </td> <td data-bbox="1300 2004 1436 2067"> <p>175-199</p> </td>	<p>計</p>	<p>15-23</p>	<p>15-23</p>	<p>15-23</p>	<p>65</p>	<p>65</p>	<p>175-199</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習
対象者	歯学生4年次生
修業年限(期間)	5日間
養成すべき人材像	・医療人としての自覚を持ち、健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応できるマインドをもつ歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 本実習を履修し、試験に合格すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】 履修方法： 診療参加型臨床実習実施期間中に <b>5日間で総計30時間の実習(1単位)を新設</b> し履修させる。内容は次項の通り。岡山大学歯学部は必修とする。プログラムの最終回に内容に即したレポート形式による課題試験を行う。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。
履修科目等	<岡山大学必修科目、他大学自由選択科目> 高齢者介護シミュレーションおよび介護老人保健施設見学、チュートリアル実習 ・実習方法： 高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を行った後、学生を大学から地域の要介護高齢者医療現場に連れだし、介護医療現場で歯科医療がどのように参画ができるかを経験させる。さらに現状の問題点を改善するための方策について考えさせる。多職種連携による認知症老人の栄養管理や感染制御について問題解決型学習(PBL)を行う。 本演習は、臨床実習の前に行われ、Early Exposureとしても機能する。少人数グループ毎に、2日目と4日目に一人の要介護高齢者および一人の介護職員と二度接する機会を設け、最後に発表会で経験した問題点とその解決策を議論する。 ・初日ガイダンス(1日目)： ディスカッションを通じて5日間の学習目標を設定 ・シミュレーション実習(1日目)： 岡山大学が中心となり開発した高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を実施 ・振り返り： 中間日(3日目)と最終日(5日目)に振り返りを行い互いの学びを共有・構造化 ・要介護高齢者医療現場見学実習(2、4日目)： 連携要介護高齢者医療現場同行実習を通じて介護医療現場で歯科医療がどのように参画ができるかを考えさせる。 ・介護職員インタビュー(4日目) 介護老人保健施設の現役介護職員に話を聞き、介護老人保健施設の現場で臨床研修を行う意義を知る。 ・経験した問題点とその解決策についての発表会での議論(5日目)

教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p><u>岡山大学が中心となり開発した高齢者介護シミュレーターを用いて高齢者介護シミュレーション実習を実施することに新規性がある。</u>  <u>介護老人保健施設で展開する高齢者介護医療の現場に学生を参画させることが新規性かつ独創性を有する。</u></p>						
指導体制	<p>教育プログラム統括：  岡山大学・窪木拓男教授（歯学部長）  岡山大学・宮脇卓也教授（岡山大学病院副病院長（教育担当））  岡山大学・江草正彦教授（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター）</p> <p>担当教員：  岡山大学・前田茂准教授（岡山大学病院歯科麻酔科）  岡山大学・森貴幸助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター）  岡山大学・村田尚道助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター）  岡山大学・前川享子助教（岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>臨床参加型実習のEarly Exposureとして機能させ、将来医療人として活躍する自覚を持たせて臨床参加型実習に臨ませる。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学歯学生	0	55	55	55	55	220
	全連携校歯学生	0	0	15	15	15	45
							0
							0
	計	0	55	70	70	70	265

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中）
修業年限（期間）	5日間（診療参加型臨床実習実施期間中）
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんなどの生と死の狭間におかれ闘病する患者に対応するチーム医療に参加経験があり、将来の医療人としての自覚を持った歯学生</li> <li>・健康長寿社会を実現する医療・介護ニーズに対応できるマインドをもつ歯学生</li> </ul>
修了要件・履修方法	<p>修了要件： 本実習を履修し、試験に合格すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】</p> <p>履修方法： 診療参加型臨床実習実施期間中に <b>5日間で総計30時間の実習（1単位）を新設</b>し履修させる。内容は次項の通り。岡山大学歯学部は必修とする。プログラムの最終回に内容に即したレポート形式による課題試験を行う。不合格者については試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。課題—レポート提出を反復させる。</p>
履修科目等	<p>&lt;岡山大学必修科目、他大学自由選択科目&gt; 高度医療支援口腔管理・周術期口腔機能管理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習方法：1組2名ずつ、H26年10月から28クールに分かれて連続5日間の実習を岡山大学生に対して実施（年間計56名）、H27年10月から35クールに分かれて連続5日間の実習を岡山大学生と他大学選択履修者に実施（年間計70名）</li> <li>・初日ガイダンス：ディスカッションを通じて5日間の学習目標を設定</li> <li>・振り返り：中間日と最終日に振り返りを行い互いの学びを共有・構造化</li> <li>・チーム医療同行：周術期管理センター、腫瘍センター、頭頸部癌センターなどの現場同行実習を通じて各職種の役割、ならびに各職種が歯科医師に求める役割を知る。</li> <li>・レジデントインタビュー：チーム医療の歯科側の窓口的な治療部（岡山大学病院医療支援歯科治療部）で研修中の現役レジデントに話を聞き、チーム医療の現場で臨床研修を行う意義を知る。</li> </ul>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>岡山大学病院は医療関係の歯科側の窓口的な業務および本院が展開する臓器移植等の高度な医療に対応するにあたり機動的な歯科治療を専門に行う独立治療部（医療支援歯科治療部）を全国に先駆けて設置している。岡山大学病院が展開する<b>高度な医療におけるチーム医療の場に学生をその一員として参画させることが新規性かつ独創性</b>を有する。</p> <p>医学・歯学教育のアウトカムとしてプロフェッショナリズムが重要視されている。医療人としての倫理・規範・行動は座学のみならず、「心を揺り動かすような体験」が必要である。岡山大学病院が展開する臓器移植医療などの<b>高度医療現場を教育の場として利用することに新規性かつ独創性</b>がある。</p>

指導体制	<p>岡山大学病院医療支援歯科治療部が統括する。</p> <p>教育プログラム統括： 岡山大学・飯田征二教授（歯科系代表副病院長、医療支援歯科治療部部长）</p> <p>担当教員： 岡山大学・曾我賢彦准教授（医療支援歯科治療部副部长）、 岡山大学・山中玲子助教（医療支援歯科治療部助教・周術期管理歯科部門長）</p> <p>実習協力者： 岡山大学・吉富愛子医員、緒形孝子医員、森谷有三英医員（医療支援歯科治療部） 岡山大学・小崎弘貴医員（周術期管理センター）、 岡山大学・室美里医員（レジデント）（医療支援歯科治療部）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
受入開始時期	<p>平成26年10月： 新年度の診療参加型臨床実習が始まる。それに合わせて受け入れを開始する。</p> <p>平成28年度以降： 全大学の共通プログラム開始後、希望する15名程度を全国の連携校より受入れる。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	岡山大学歯学生	55	55	55	55	55	275
	全連携校歯学生	0	0	15	15	15	45
							0
							0
	計	55	55	70	70	70	320

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岡山大学歯学部
教育プログラム・コース名	医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
対象者	歯学生5～6年次生（診療参加型臨床実習実施中）
修業年限（期間）	2日間（診療参加型臨床実習実施期間中）
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度急性期から在宅まで多様な場面で医師が果たすべき役割を理解している歯学生</li> <li>在宅医療を担っている医療・介護多職種連携チームを形成するスタッフの役割を理解している歯学生</li> </ul>
修了要件・履修方法	<p>修了要件： 原則として全日程に出席して事後レポートを提出すること【岡山大学必修、連携大学自由選択】</p> <p>履修方法： <u>次項の内容の2日間（計15時間・0.5単位）の実習を新規に開講する。</u> 岡山大学生は歯学部必修科目として、他連携大学生は自由選択科目として履修</p>
履修科目等	<p>&lt;岡山大学必修科目、他大学自由選択科目&gt; 在宅・訪問歯科診療実習および地域歯科医療実習（2日間計15時間・0.5単位） 岡山大学生は診療参加型臨床実習の単位取得にあたり履修を必須とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション実習：在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション実習を事前に行い、在宅・訪問歯科診療の基本的な知識・技術・態度を学ぶ。</li> <li>・派遣先地域医療機関（病院・開業歯科医院）：学生は、地域医療機関1カ所1日で、2か所で実習する。</li> <li>・実習方法：学生は地域医療機関に行き、指導歯科医によるオリエンテーションを受けた後、在宅または介護施設への訪問歯科診療に同行する。そこで、指導歯科医の指導のもと、在宅・訪問歯科診療の介助または基本歯科処理を行い、在宅・訪問歯科診療の実践を学ぶ。</li> <li>・介護多職種との連携：学生は、在宅・訪問歯科診療現場で、医療だけでなく介護に関わる多職種のスタッフとコミュニケーションすることで、実習を通じて多職種と連携したチーム医療の重要性を実感で学ぶ。</li> <li>・ディスカッション：学生は、指導を受けた地域医療機関で、指導歯科医と在宅・訪問歯科診療に必要な知識、態度、技術についてディスカッションし、診療の現場で学んだ内容を深く掘り下げて習得する。</li> <li>・学生に対する評価：地域医療機関の指導歯科医は、学生の実習態度、在宅・訪問歯科診療に関する知識、ディスカッションに前向きに取り組んだかどうかについて評価し、大学の教務委員会に提出する。</li> <li>・振り返り：現場での実習後、大学内での「振り返り」に参加し、自験症例についてプレゼンテーションする。ここでは、他の施設での他の学生が経験した症例を知ること、より多くの症例について知る。在宅・訪問歯科診療および地域歯科医療について広く学び、また解決すべき問題点をまとめる。</li> </ul>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅・訪問歯科診療のためのシミュレーション教育を事前に行うことによって、在宅・訪問歯科診療の現場で、単に見学だけにとどまらず、診療に参加できる能力を備えてから現場に送り出すため、より充実した実習を行うことができる。</li> <li>・多職種連携によるチーム医療は、講義の中で理解するだけでなく、在宅・訪問歯科診療の現場で体験することで、その重要性を実感することができる。</li> <li>・在宅・訪問歯科診療に関する実習は、2カ所でしかできないが、「振り返り」で他の症例を知ることで、在宅・訪問歯科診療に共通の問題に気づくことができる。その問題を解決できる創造力を涵養したい。</li> <li>・学生は実習内容を評価するが、同時に自己評価をすることになっている。一方方向の教育ではなく、学生の自ら学ぶ姿勢を引き出すことが目的である。</li> </ul>						
<p>指導体制</p>	<p>教育プログラム統括：岡山大学・宮脇卓也教授（教育担当副病院長、歯科麻酔学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先地域医療機関の指定および指導歯科医の任命：派遣先地域医療機関および指導歯科医は、大学教務委員会および教授会が1年ごとに審査する。審査結果に基づき、当地域医療機関と協定を結び、指導歯科医を任命する。</li> <li>・指導歯科医に対するFD：毎年定期的に、指導歯科医を対象としたFDを開催し、教育の質を担保できるようにする。</li> <li>・実習内容の評価：地域医療機関での実習内容について、学生が評価する体制を整える。具体的には、指導歯科医とのディスカッションの内容を学生が評価し、教務委員会に提出する。実習内容の評価をもとに、大学の教務委員会が指導内容をチェックする。</li> </ul>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>卒後臨床研修に初歩的な実践能力を養うコースを設置し、マインドを積極的な実践に移行させる。 大学院教育の目的の一つである、健康長寿社会を実現する指導的臨床家の育成につなげる。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成26年10月： 次期診療参加型実習の開始に合わせて受け入れを開始する。 平成28年度以降： 全大学の共通プログラム開始後、希望する約10名程度を全国の連携校より受入する。</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
	<p>岡山大学 歯学生</p>	<p>55</p>	<p>55</p>	<p>55</p>	<p>55</p>	<p>55</p>	<p>275</p>
	<p>全連携校 歯学生</p>	<p>0</p>	<p>0</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>10</p>	<p>30</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>55</p>	<p>55</p>	<p>65</p>	<p>65</p>	<p>65</p>	<p>305</p>